

# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)御所南マンション計画	階数	地上10F
建設地	京都市中京区高倉通御池上る柵町581-1、581-2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	95 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年2月 予定	評価の実施日	2010年2月5日
敷地面積	427 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	285 m <sup>2</sup>	確認日	2010年2月8日
延床面積	2,159 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.7

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 全ての屋根を大屋根とし、ファサードについても周辺の町並みと調和するよう計画を行った。		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 快適な室内環境となるよう、複層ガラス・T-2サッシを採用した。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 バリアフリー計画について配慮した。	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 可能な限り植栽を設けると共に、自然素材の仕上材を採用することで、良好な環境を形成するよう配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に無し	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に無し	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 特に無し

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される